

# 吉島病院看護部 呼吸器ラダー

定義	ラダー	ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ
レベル毎の定義		1.基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する	2.標準的な看護計画に基づき自立し看護を実践する	1.ケアの受けてに合う個別的な看護を実践する	1.幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する 2.より複雑な状況においてケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
目指す看護師像		1.呼吸器の解剖生理、各種検査、使用する機器仕組みがわかる 2.正常値がわかり異常がわかる 3.処置や機器管理で使用する必要物品がわかる	1.病態生理を理解しフィジカルアセスメントができる 2.機器や使用する物品を正しく、安全に取り扱うことができる 3.マニュアルに沿った看護技術が実践できる	1.助言を受けながら呼吸器ケアの指導ができる 2.知識と実際のケアの受け手の状態を統合しアセスメントができ、治療を理解しケアを実践できる 3.慢性呼吸器疾患患者の退院支援を自立して行うことができる	1.呼吸ケアの指導ができ、より複雑な疾患、状況にも対応できる 2.病態や治療の効果・リスクをアセスメントし、合併症予防や感染予防の視点をもち看護を実践できる 3.慢性呼吸器疾患患者の退院支援にリーダーシップを発揮できる
処置	挿管について	○呼吸停止の状態がわかる ○気管内挿管・気管切開の適応がわかる ○挿管の必要物品・手順がわかる	○挿管の介助ができる	○挿管介助の指導ができる	○急変時の場で、リーダーの役割を果たしながら挿管介助ができる
	胸腔ドレーン	○胸腔ドレーンの原理としくみがわかる ○胸腔ドレーン挿入の必要物品と手順がわかる ○胸腔ドレーンの合併症がわかる	○マニュアルに沿って胸腔ドレーン挿入の介助ができる ○胸腔ドレーン挿入中の観察を行い異常を先輩に報告できる	○胸腔ドレーン挿入とその後の管理の指導ができる	○安全に胸腔ドレーン挿入ができるように指導し医師と協働、連絡、調整ができる
	胸膜癒着術	○胸膜癒着術の目的がわかる	○マニュアルに沿って処置の介助ができる ○治療後の観察ができる ○肺区域、区域気管支の配置がわかる	○胸膜癒着術介助とその後の管理の指導ができる	
	BF	○BFの目的、適応、合併症がわかる ○使用時の必要物品がわかる	○BFの構造がわかり正しく取り扱うことができる ○マニュアルに沿ってBF吸引の介助ができる ○EWSを用いた気管支充填術の適応がわかる ○気管支充填術後の観察ができる ○肺区域、区域気管支の配置がわかる	○BF介助の指導ができる	
機器	気道確保関連	○気道確保が必要な呼吸状態がわかる ○上気道の解剖生理がわかる ○エアウェイ(経口、経鼻)の特徴がわかる ○バックバルブマスクの原理としくみがわかる ○バックバルブマスク使用時の注意点、マスク保持の方法がわかる	○エアウェイの挿入ができる ○バックバルブマスクでの補助換気ができる ○シヤクソリス回路の原理と仕組みがわかる ○輪状甲状膜穿刺と目的と介助方法がわかる ○モニタックの構造がわかる	○BLSの指導ができる	
	人工呼吸器関連の機器 (IPPV、NPPV、気管チューブ類、加温加湿器、人工鼻)	○人工呼吸療法の目的がわかる ○自発呼吸と人工呼吸の違いがわかる ○人工呼吸が生体に及ぼす影響がわかる ○人工呼吸器の基本的なモード・アラームの意味がわかる ○NPPVの適応と合併症がわかる ○人工呼吸器、V60の立ち上げから装着まで行うことができる ○気管チューブの構造、種類がわかる ○加温加湿の必要性がわかる ○人工鼻の構造、利点・欠点がわかる	○人工呼吸器装着患者に合ったモードが理解でき、アラームの対応ができる ○マスクフィッティングの基本がわかり実践できる ○気管切開チューブの交換日を把握できる ○マニュアルに沿って気管切開チューブ交換の介助ができる ○人工鼻の観察が行え交換できる ○機器を正確・安全に取り扱うことができる	○IPPV、NPPVの看護が指導できる ○NPPVの除外条件がわかり緊急時の対応ができる ○適切な加温加湿ができているがアセスメントし加温加湿器と人工鼻の選択ができる ○VAP予防ができる ○在宅で必要なケア、機器の管理がわかりケアの受け手に指導できる ○人工呼吸器装着中の看護においてトラブルへの対応ができる (気管チューブ、カフ管理、人工鼻、機器など)	○安全にウィニングを実践し、指導できる ○長期の人工呼吸器装着に伴う、ケアの受け手の身体的・精神的・社会的側面から看護実践できる ○病態やNPPVの効果のアセスメントし今後起こりうる問題点を予測し対応できる
	気道管理関連の機器 (気管吸引、カフ圧計)	○気道の解剖生理がわかる ○気管吸引の目的、必要物品、手順、留意点がわかる ○開放式吸引と閉鎖式吸引の特徴と手順がわかる ○気管チューブのカフの役割がわかる ○カフが気管粘膜に及ぼす影響がわかる ○カフの種類がわかる	○正しい吸引圧、挿入の深さ、適切な時間・方法で安全に吸引できる ○適正なカフ圧を理解し、手順に沿ってカフ圧の調整ができる	○ガイドラインに沿った気管内吸引を指導できる ○カフ管理について指導できる	
	呼吸療法関連の機器 (ネブライザー、酸素ボンベ)	○呼吸器の異物除去機構がわかる ○ネブライザー療法の目的がわかる ○正しくネブライザーの使用ができる ○酸素ボンベの安全な取扱い方法がわかり酸素ボンベの交換ができる	○酸素ボンベ使用時は残量を確認し何時間使用可能であるが計算できる ○人工呼吸回路にネブライザーを接続する時の留意点がわかり正しい使用ができる		
	検査・モニタリング用の機器 (パルスオキシメーター、カフノメーター、血液ガス分圧装置、呼吸機能検査装置)	○パルスオキシメーターの原理と構造がわかる ○正常なガス交換がわかる ○酸素解離曲線がわかる ○血液ガス分圧の目的、正常値がわかる ○肺気量分画の名称の意味がわかる ○換気障害の分類がわかる	○マニュアルに沿ったモニター類の管理ができる ○血液ガス分圧装置を正しく使用し測定できる ○血液ガス分析の異常が理解できる ○カフノメーターの仕組みがわかる	○血液ガス分圧の結果からケアの受け手のアセスメントができ看護を実践できる ○肺機能検査の結果を、ケアに結び付け実践できる	
酸素療法の看護	各デバイス	○酸素療法の適応と注意点がわかる ○低流量、高流量システム、リザーバーシステムの特徴と種類がわかる ○酸素解離曲線がわかる ○酸素療法の合併症がわかる ・CO2ナルコーシス原因・症状・発生機序がわかる ・酸素中毒	○状態にあった酸素療法デバイスの選択ができる ○気管切開している場合の酸素投与が正しく、安全にできる ○ハイフローセラピーの特徴、基本構造が理解でき正しく取り扱うことができる ○ハイフローセラピーの観察点、装着中の看護ができる	○CO2ナルコーシスのアセスメントができ対応できる ○ハイフローセラピーの看護が指導できる	
	在宅酸素療法	○在宅酸素療法の適応と注意点がわかる	○濃縮器タイプと液体酸素タイプの特徴がわかる ○CPIに沿ってHOT導入ができる ○在宅用の携帯用酸素ボンベの交換、残量確認ができる	○ケアの受け手の生活や思いに合った教育・指導ができる ○在宅用の携帯用酸素ボンベの使用法、ボンベ交換のケアの受け手に指導ができる ○必要な制度がわかり対応できる(必要な社会資源がわかる)	
病態・症状別看護	呼吸不全	○Ⅰ、Ⅱ型呼吸不全の定義がわかる ○呼吸生理を理解できる	○フィジカルアセスメントができる ○マニュアルに沿った看護技術が提供できる	○主要な疾患を理解し看護計画に反映することができる ○呼吸介助ができる ○胸部X線像の正常がわかる	○フィジカルアセスメント、検査データなどから判断して呼吸療法の合併症予防が実践できる ○胸部X線の異常所見がわかる
	呼吸困難	○呼吸生理、呼吸困難の病態生理、成因がわかる	○緊急度・重症度の観察・アセスメントのポイントがわかる ○呼吸困難時の対応方法・治療がわかる (終末期におけるモルヒネ、セディーションも含む)	○呼吸困難時の対応を実践できる 1.呼吸介助が実践できる 2.排痰介助 3.薬物管理ができる(吸入、モルヒネなど) 4.救急対応 など	○呼吸状態、治療方針、患者のニーズを総合的にアセスメントし他職種と調整し連携できる ○呼吸困難を多角的に捉えアセスメント、鑑別できる (呼吸器疾患にこだわらず、トータル的にアセスメント)
	血痰・咯血	○肺の機能血管と栄養血管がわかる	○血痰・咯血が生じるメカニズムがわかり、アセスメントできる ○血痰・咯血時の対応方法・治療がわかる	○血痰・咯血時の対応を実践できる 1.気道確保 2.健側肺の保護 3.止血 など	
疾患別看護	肺結核 MAC症	○感染対策がとれる	○生じるメカニズム、危険因子、症状がわかる ○診断・検査がわかる ○治療がわかる	○診断・検査結果から適切な対応ができる ○治療を理解しケアの受け手に教育できる(方法がわかる)	
	COPD	○気道の解剖生理がわかる ○呼吸の調節機構がわかる ○換気障害の分類がわかる	○定義、危険因子、メカニズム、症状がわかる ○診断と分類がわかる ○安定期、増悪期の治療がわかる ○COPD教育入院の対応ができる	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる ○COPD教育入院の対応ができる ○CO2ナルコーシスのアセスメントができ対応できる	
	気管支拡張症	○気道の解剖生理がわかる ○呼吸器の異物除去機構がわかる ○胸郭運動がわかる	○定義、危険因子、メカニズム、症状がわかる ○診断と治療がわかる ○排痰の促進の援助ができる(体位ドレナージ、スクイージングなど)	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる ○咯血時の対応ができる	
	SAS	○気道の解剖生理がわかる	○定義、原因、メカニズム、症状がわかる ○診断と治療がわかる	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる	
	気胸・膿胸	○胸膜腔の解剖生理がわかる ○気胸の分類と生じるメカニズムがわかる ○症状と合併症がわかる	○気胸の合併症がわかり援助できる ○膿胸の分類とメカニズム、症状がわかる ○膿胸の診断・治療がわかる	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる	
	間質性肺炎	○肺胞の構造、肺実質と肺間質の構造がわかる ○ガス交換がわかる	○定義、メカニズム、分類、症状がわかる ○診断、検査、治療がわかる	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる ○ステロイド、免疫抑制剤の副作用がわかる	
	肺水腫	○肺循環のしくみがわかる ○外呼吸、内呼吸がわかる	○定義、メカニズム、分類、症状がわかる ○診断、検査、治療がわかる	○治療効果のアセスメントでき苦痛への対応や、医師への報告ができる	
	喘息	○定義、メカニズム、誘因・原因・症状がわかる ○検査、治療がわかる ○吸入薬の作用・副作用がわかる	○発作時のアセスメントをし苦痛への対応ができ、医師への報告ができる ○治療を理解しケアの受け手に指導ができる ○吸入器を正しく使用でき、ケアの受け手に使用状況の確認と吸入指導ができる	○喘息時の問診ができ重症度の判断ができる	
	肺癌	○肺癌の種類、分類がわかる ○肺癌の症状、検査がわかる	○肺癌の治療がわかる 手術療法、放射線療法、化学療法	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる	
	ARDS		○ARDSの診断基準、原因、メカニズム、症状がわかる ○ARDSの治療がわかり、観察・看護ケアがわかる	○ARDSの観察を行い看護ケアができる	○人工呼吸器装着時の合併症をおこさないように管理できる (適切な人工呼吸器設定がわかる)
	肺血栓塞栓症		○肺血栓塞栓症の原因、病態と臨床所見、治療がわかる ○静脈血栓塞栓症の形成を誘発する要因がわかる	○リスク患者に予防的ケアができる	○症状、所見より他の疾患と鑑別でき、早期に対応できる
	周術期		○手術侵襲による身体への影響、術式と適応がわかる ○基本的な合併症がわかる	○術前情報よりアセスメントし予防できる	○治療を理解しケアの受け手に指導ができる ○治療と切除部位を理解し術後のケアができる

# 呼吸器ラダー 研修風景

## 呼吸器ラダー I



検査・モニタリングについて

講師：慢性呼吸器疾患看護認定看護師

## 呼吸器ラダー II

### 呼吸器疾患の理解 肺結核・MAC症

講師：呼吸器内科医師



### 呼吸器疾患の理解 吸入薬

講師：薬剤師



カブノメーター・経皮CO2モニター・ネザルハイフロー

講師：臨床工学技士



呼吸器疾患に関連した処置介助

講師：呼吸療法認定士

## 呼吸器ラダー III



呼吸器疾患に関連した処置介助 気管支鏡

講師：呼吸療法認定士



呼吸器疾患に関連した処置介助 胸腔ドレーン

講師：呼吸療法認定士